



# 北極海をめぐる地政学 過去、現在、未来

大西 富士夫

北海道大学北極域研究センター・北極環境コンソーシアム（JCAR）副委員長



## 所属

北海道大学・北極域研究センター・人文社会科学研究グループ長/准教授  
スラブ・ユーラシア研究センター准教授（兼務）  
ラヴァル大学特任教授（2016－2021）  
ノルウェー防衛研究所客員研究員（2018-2019）  
バレンツ研究所客員研究員（2008－2009）

## 研究分野

国際政治学，主に北極域における国際秩序の成立と発展，気候変動の影響，グローバル  
国際政治の影響，日本の北極政策、北極地政学

**社会活動:** 日本北極研究コンソーシアム副委員長，文科省北極域研究加速事業  
（ArCSII）国際政治課題責任者，北極評議会・持続可能な開発作業部会派遣者、  
国際北極科学委員会人文社会科学作業部会委員



 Polar Science  
Available online 24 January 2024, 101050  
In Press, Corrected Proof [What's this?](#)

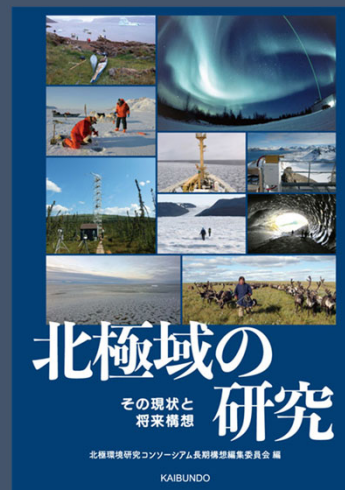
**Cold winds in the north: Three perspectives on the impact of Russia's war in Ukraine on security and international relations in the Arctic**

[Paal Sigurd Hilde](#)<sup>a</sup>, [Fujio Ohnishi](#)<sup>b</sup>, [Magnus Petersson](#)<sup>c</sup>

Show more 

[+](#) Add to Mendeley [🔗](#) Share [🗣️](#) Cite

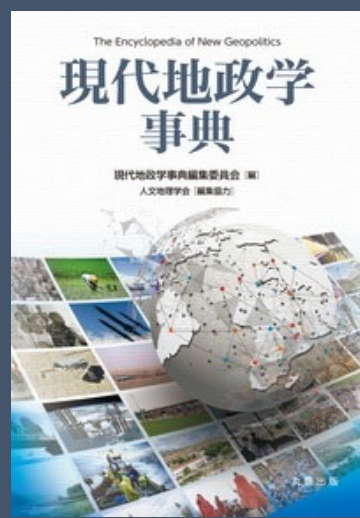
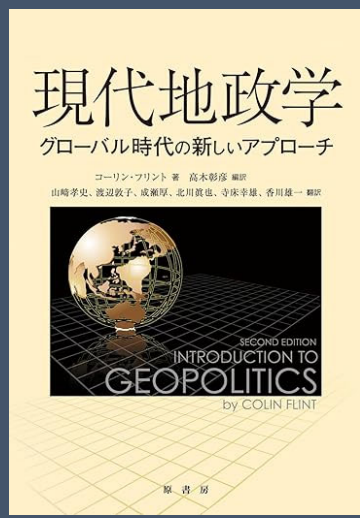
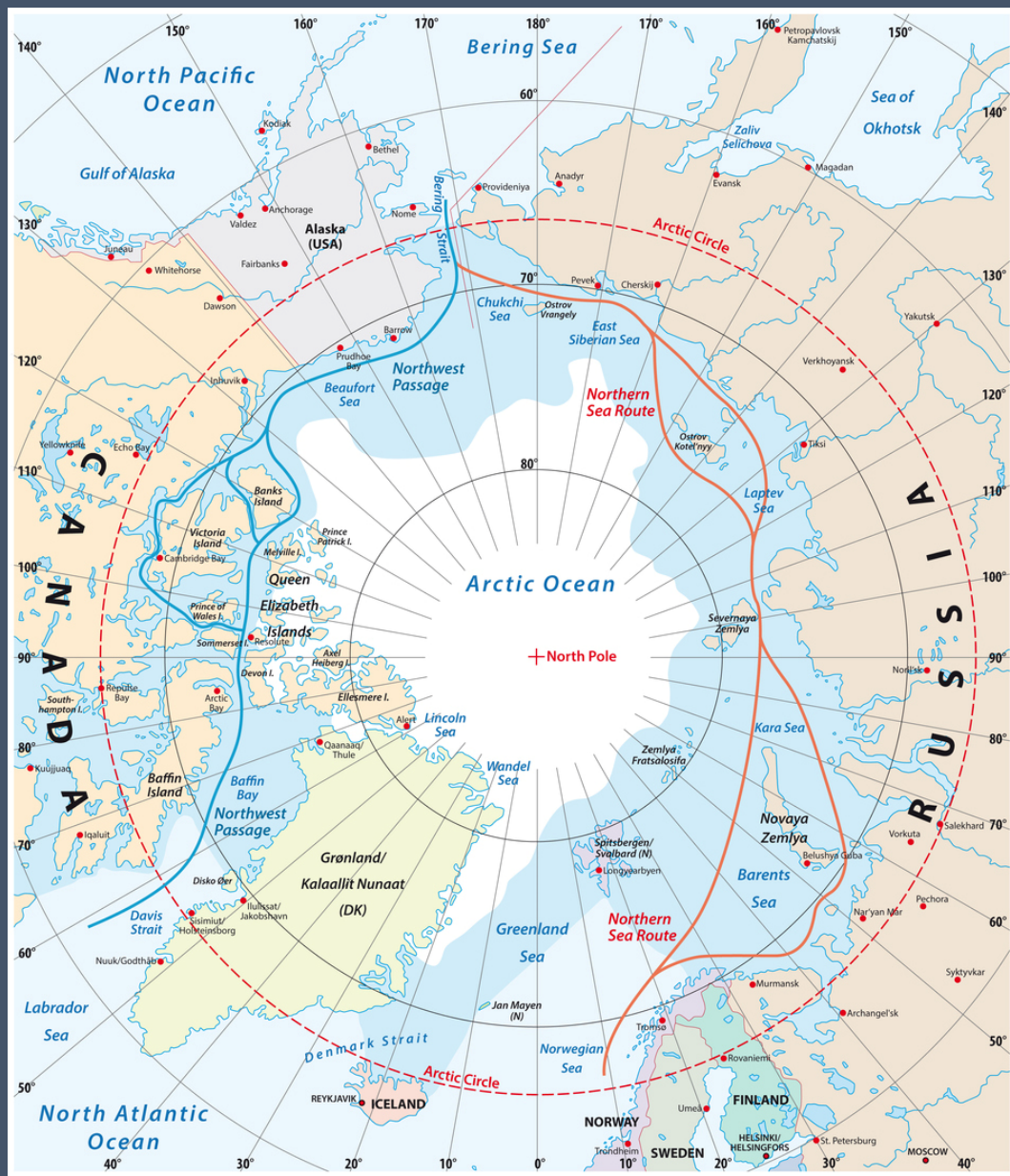
<https://doi.org/10.1016/j.polar.2024.101050> [Get rights and content](#)



# 地政学

## 伝統的地政学

## 現代地政学



## 内容

---

1. 過去－4つの系譜

2. 現在

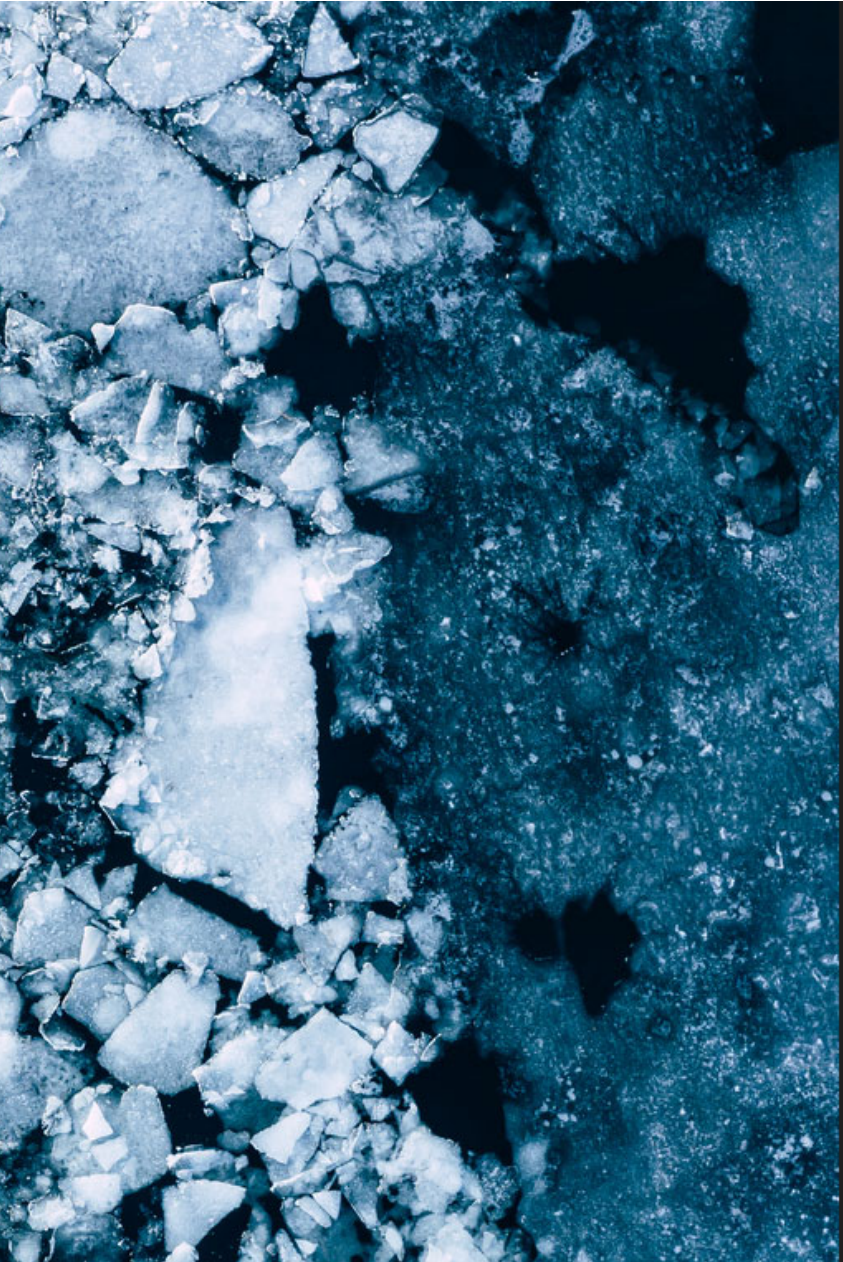
協力の系譜（共通利益の重視）

対立の系譜（国益の重視）

ロシアのウクライナ侵攻の北極ガバナンスおよび

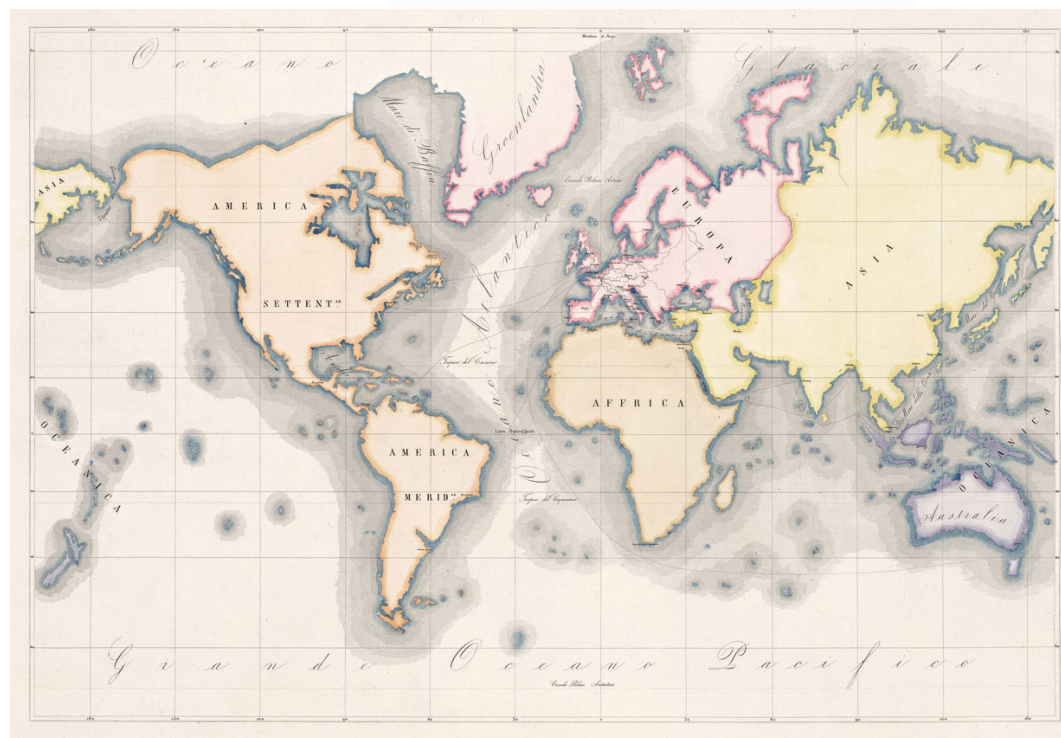
安全保障環境への影響

3. 未来



# 1 過去ー 4つの系譜

世界地図1828



# 4つの系譜

## 探検

- ・発見（ギリシア、バイキング）から探検（大航海時代～ヴィクトリア王朝期の北米進出）

## 科学観測

第2の科学的発見の黄金時代/ユーロ・アメリカン科学の拡大  
18世紀～ 測地学、天文学、地球物理

国際観測協力：IPY1；IPY2；IGY（IPY3）、IPY4

## 軍事利用

第2次世界大戦

長距離爆撃機と北米の防空網、核実験、大陸間弾道弾、潜水艦

## 資源開発

カナダの油田開発、アラスカ石油発見、北海油田

北極圏でジョン・フランクリン卿の船を捜索する帆船（1850年）



アラスカノーススロープ郡の油田の発見（1968年）



<https://www.alamy.com/stock-photo-alaska-oil-field-1968-naerial-view-of-one-of-the-first-oil-wells-overlooking-95873840.html>

## 冷戦の終結

- 1987年中距離核戦力全廃条約
- 1989年 11月ベルリンの壁崩壊、12月マルタ・サミット
- 1991年 ソ連の崩壊



# 協力の系譜

## 冷戦末期の4つの国際協力構想

米国 (科学者) 科学観測の国際協力  
 ソ連 ゴルバチョフ a 'zone of peace'  
 フィンランド 外交官 環境保護の国際協力  
 加 ムーロイ首相 先住民交流、国際会議体

## 北極国際協力の成立

国際北極科学委員会、北極環境保護戦略、  
 北極評議会

## 北極例外主義

外交官、研究者、自治体、先住民代表団体が「北極域は環境負荷に極めて脆弱であるため、主権の防衛や安全保障といった問題への対処は、例外的な対応をしなければならない」という強い信念が定着 (Lackenbauer and Dean, 2020,327)

## 北極評議会



北極圏諸国に居住する先住民団体：6団体  
 ・(ア) アリユート国際協会  
 ・(イ) 北極圏アサバスカ評議会  
 ・(ウ) グイツェン国際評議会  
 ・(エ) イヌイット極域評議会  
 ・(オ) ロシア北方民族協会  
 ・(カ) サーミ評議会





# 協力の系譜

北極ガバナンス：国際法、国際協力、非国家主体協力がザイク状に存在している（Young 2005）

国際法①：国連海洋法条約、国際環境条約、IMO規則

国際法②：北極遭難捜索救助協定（2011）、北極油濁汚染防止協定（2013）、北極国際科学協力促進協定（2017）、中央北極海公海無規制漁業防止協定（2018）

国際協力：北極評議会、バレンツ・ユーロ北極評議会（BEAC）、ノーザン・ダイメンション（ND）、北極海沿岸国会議、北極沿岸警備隊フォーラム、北極科学大臣会合（2016、2018、2020）

トランスナショナル協力①：アリュート国際協会、北極圏アサバスカ評議会、サーミ評議会、グイッチン国際評議会、イヌイト極北会議、ロシア北方民族協会

トランスナショナル協力/ネットワーク②：北極サークル、北極フロンティア、北極経済評議会等

## 2

# 現在－ 対立の系譜

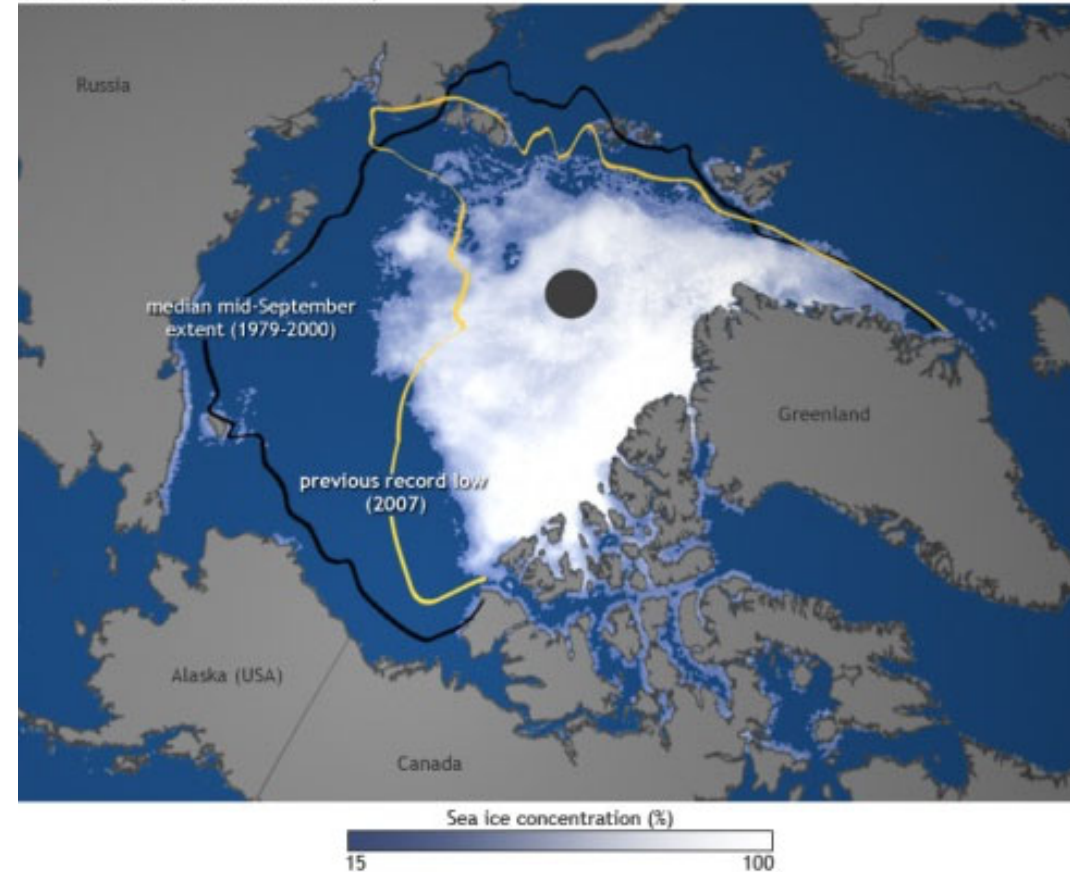
## 北極海の夏季海氷面積

1979-2000年平均面積  
670万平方キロメートル

2007年 417万平方キロメ  
ートル

2012年 338万平方キロメ  
ートル

September 16, 2012 (summer minimum)



## 対立の系譜（国益重視の系譜）

- 原油価格の高騰（30⇒150ドル台）、ピークオイル論、資源ナショナリズム（ベネゼエラ、ロシア等）⇒供給不安による**エネルギー安全保障**
- USGS「膨大な化石燃料資源ポテンシャル」(2001、2008)⇒「経済的な最後のフロンティア」、北極海航路への期待
- **カナダ**：ハーパー政権「北極を利用するか、失うかだ」（2006～）・**ポラーラー・レース**⇒北極先住民からの批判～**ポラーラー・サガ**へ
- **ロシア**：**国旗設置**（2007）「北極は誰にも渡さない」、「結託してロシアを締め出そうとしている」⇒2008～「協力の場所」、「資源基地」（ロシアブランドの海外輸出）
- 揺戻し：イルリサット宣言(国連海洋法条約、北極評議会を中心のガバナンスを確認)、high North, low tension(ノルウェー)、Arctic Circle Assembly(アイスランド)
- アジア諸国進出（2009～）
- 米国 ポンペオ「北極はパワーと競争の場」（2019年）
- EU 「EUは北極域の地政学的アクター」（2021年）



# 北極ガバナンスへの影響

- 北極評議会の重要性：環境保護・持続可能な開発ハイレベルフォーラム、先住民団体の意思決定への参加「常時参加者」
- 国際協力への停止：3/3 A7声明（資料参照）、北極評議会の活動の一時停止、A7での部分的再開（BEAC、NDも活動停止）
- ロシアからノルウェーへの議長国の移行問題：議長交代には、2年に一度開催される閣僚会合で現議長国の活動成果と新議長国のアジェンダの承認が必要
- 活動の再開の条件問題  
2023年8月29日、加盟国と常時参加者が合意した場合、作業部会の活動に関して書面を通じた協議を行うこと可能
- ロシア北極評議会への継続的関与？  
2023年2月に「2035年までの北極圏におけるロシア連邦の国家政策の基本原則」を改定し、AC、北極沿岸国会議、BEACについての記述が削除、2023年9月BEAC脱退、中国との海洋監視分野での協力の深化、BRICs諸国との科学観測での連携模索、国防省AC脱退示唆（2024年2月）

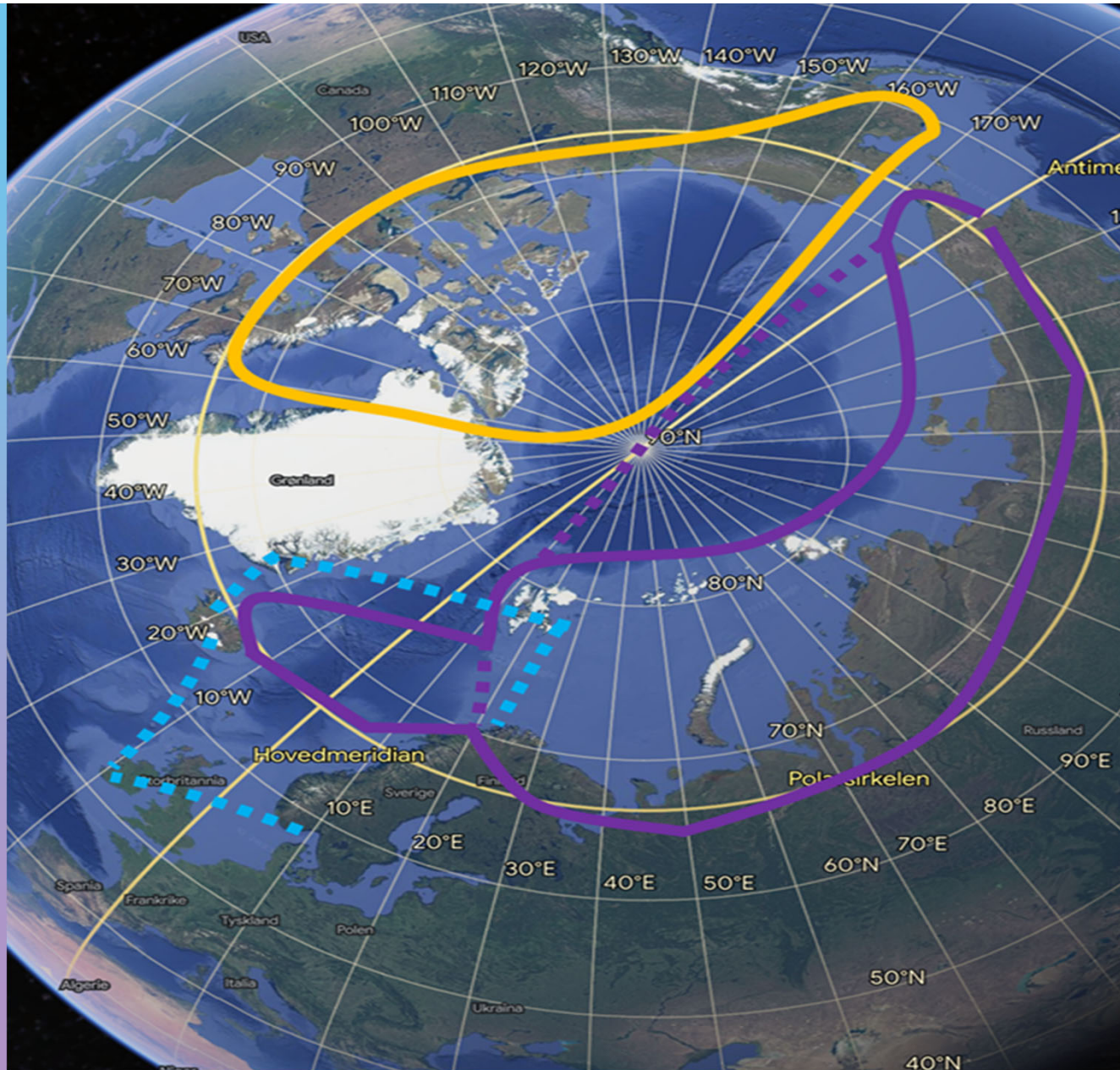
# 北極ガバナンスへの影響



- 国際協力への重大な妨害
- 北極評議会の価値・支持・責任
- 主権と領土保全の原則に対する明確な違反
- 一時的な参加停止

# 安全保障環境への影響

- フィンランドとスウェーデンの安全保障政策の転換：加盟議定書調印、フィンランド加盟、スウェーデン加盟見込み、非同盟路線の変更
- 北極海におけるセキュリティー・リージョンズへの分岐：NATO（北ヨーロッパ）、北米航空宇宙防衛司令部（NORAD、米加）、ロシア・シベリアの顕在化（資料参照）
- 戦争前の安全保障環境（資料参照）、「2か国との問題なし・軍事インフラであれば話は別」（プーチン）
- **ウクライナ戦線への北方艦隊の投入**によるロシアの戦力ダウン：マーシャル・ウスチノフと大型揚陸艦、第200起動ライフル旅団と第61海軍歩兵旅団、北方艦隊のレニングラード軍管区への再編（2024年2月）
- フィンランドとスウェーデンは以前から**NATOの域外任務等に積極的に参加** cf. PfP、ホスト・ネーション
- NATO内に北極海に特化した司令部創設の議論はなし（カナダの反対）、若干の不協和音





**Key Locations**

- |   |  |    |               |
|---|--|----|---------------|
| 1 | Bodø, Norway's National Joint Headquarters   | 6  | Sredny Ostrov |
| 2 | Severomorsk, home of Russia's Northern Fleet | 7  | Alykel        |
| 3 | Naryan-Mar                                   | 8  | Tiksi         |
| 4 | Rogachevo                                    | 9  | Temp          |
| 5 | Nagurskoye                                   | 10 | Zvyozdny      |
|   |  | 11 | Mys Shmidta   |
|   |  | 12 | Ugolny        |

Source: Heritage Foundation research.  
The Heritage Foundation

- |  |  |  |
|--|--|--|
|  Key regional headquarters |  Confirmed bases Russia is building/upgrading |  Bases Russia may upgrade |
|--|--|--|





### 3. 未来

- 冷戦終結以降の北極国際政治は、地政学的な対立局面もあったが、総じて国際協力を基調とする協調的な関係を崩すものではなかった（協力の系譜が主流）
- **ロシア・ウクライナ戦争は、こうした潮流を大きく変えた。**
- 北極ガバナンスに関して、北極圏国間の協力の精神が棄損されるとともに、北極域が例外ではなくなった（例外主義）
- 安全保障環境に関して、戦争はフィンランドとスウェーデンにNATO加盟へと舵を切らせたが、短期的にはそのことが北極海における軍事的緊張に直結するものではない。
- また、戦争によってロシアの北方艦隊の兵力は減少していることは北極の軍事化とは逆の方向に作用している。
- 長期的には、**3つのセキュリティ・リージョン**へと分断（顕在化）
- 他方において、北極海が完全に対立の系譜に変貌してしまったわけではない。ただし、戦争が長期化すれば、ロシアとA7との対立構造は解消されず、時間と共に対決の系譜（国営機重視）が固定化されていくことになる。
- 有志連合（国益反映）とグローバル・イシュー（共通利益）の問題：北極評議会は、有志連合の枠組みの性格へと移行していく？